

## キク茎えそ病(CSNV) の発生について

### 1 発生の経緯

平成22年5月、県内においてキクの葉および茎にえそ症状が見られる株が発生し、宮城県農業・園芸総合研究所バイオテクノロジー開発部で遺伝子診断(RT-PCR-RFLP法)を行った結果、キク茎えそウイルス(CSNV)が検出された。本ウイルスは平成18年に広島県で初確認された後、九州から東北までの16県で発生が確認されている。本県での発生は初確認である。

### 2 発生状況

- (1) 発生作物 キク
- (2) 病害名 キク茎えそ病  
病原ウイルス キク茎えそウイルス (*Chrysanthemum stem necrosis virus*; CSNV)
- (3) 栽培様式 施設栽培

### 3 本病の伝染経路及び病徴

- (1) 本病は主にCSNVを保毒したミカンキロアザミウマによって媒介される。
- (2) 一度ウイルスを保毒したミカンキロアザミウマは終生ウイルス伝搬能力を持つ(永続伝搬)。
- (3) 罹病株を親株に用いた挿し穂による栄養繁殖でも伝染する。
- (4) 種子伝染、土壌伝染はしないと考えられている。
- (5) 本ウイルスに感染したキクの症状は、品種によって異なるが、葉の退緑(図1)やえそ症状(図2)、茎のえそ症状(図3)や湾曲(図4)を生ずる。TSWV(*Tomato spotted wilt virus*)によるキクえそ病による症状と酷似しており、病徴からの診断は難しい。
- (6) これまで国内においてキク、トマトでの発生が確認されている。



図1 葉の退緑症状



図2 葉の退緑およびえそ症状



図3 茎のえそ症状

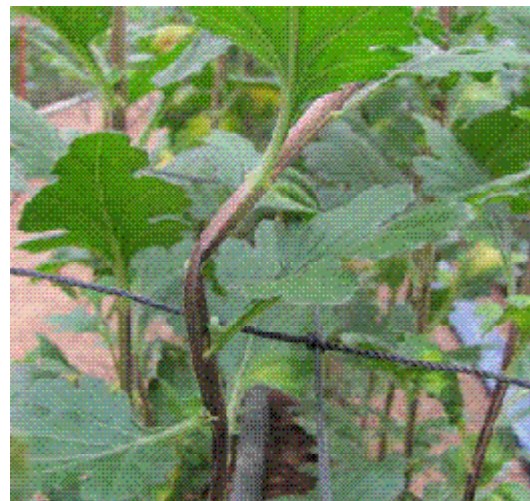


図4 茎の湾曲症状

## 4 防除対策

- (1) 本ウイルスの媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する(表1)。
- (2) 罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取り、土中深く埋めるなど適切に処分する。
- (3) ほ場内外の雑草はCSNVの宿主や、ミカンキイロアザミウマの増殖源となるため、除草を行い、環境整備に努める。
- (4) 施設開口部を寒冷紗や防虫ネットで被覆し、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- (5) 栽培終了後は施設を密閉し、ミカンキイロアザミウマを死滅させ、施設外への分散を防ぐ。

表1 アザミウマ類の登録薬剤(対象作物:キク,平成22年6月10日現在)

※太字はミカンキイロアザミウマの登録薬剤

薬剤系統名	薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数 使用量	使用方法
有機リン系	<b>プロチオホス乳剤 (トクチオン乳剤)</b>	発生初期	5回以内	1000倍	散布
	アセフェート水溶剤 (ジェイエース水溶剤)	発生初期	5回以内	1000~1500倍	散布
有機リン・カーバメート系	マラソン・BPMC乳剤 (マラバッサ乳剤)	開花期 まで	-	1500倍	散布
カーバメート系	ベンフラカルブマイクロカプセル剤 (オンコルマイクロカプセル)	発生初期	3回以内	1000倍	散布
	<b>ベンフラカルブ粒剤 (オンコル粒剤5)</b>	生育期	3回以内	9kg/10a	株元散布
	カルボスルフアンマイクロカプセル剤 (ガゼットMCフロアブル)	-	3回以内	1000倍	散布
	<b>カルボスルフアン粒剤 (ガゼット粒剤)</b>	生育期	3回以内	9kg/10a	株元散布
ピレスロイド系	<b>アクリナトリン水和剤 (アーデント水和剤)</b>	発生初期	5回以内	1000倍	散布
	ビフェントリン水和剤 (テルスターフロアブル)	-	3回以内	2000倍	散布
ネオニコチノイド系	<b>チアメトキサム水溶剤 (アクタラ顆粒水溶剤)</b>	発生初期	6回以内	1000倍	散布
	クロチアニジン水溶剤 (ダントツ水溶剤)	発生初期	4回以内	4000倍	生育期 株元灌注
		発生初期	4回以内	2000倍	散布
	クロチアニジン粒剤 (ダントツ粒剤)	発生初期	4回以内	2g/株	生育期 株元散布
	<b>ニテンピラム水溶剤 (ベストガード水溶剤)</b>	発生初期	4回以内	1000倍	散布
	<b>ニテンピラム粒剤 (ベストガード粒剤)</b>	発生初期	4回以内	2g/株	生育期 株元散布
	<b>アセタミプリド水溶剤 (モスピラン顆粒水溶剤)</b>	発生初期	5回以内	2000倍	散布
	アセタミプリド粒剤 (モスピラン粒剤)	生育初期	1回	1g/株	株元散布
昆虫成長制御剤	ノバルロン乳剤 (カウンター乳剤)	発生初期	5回以内	2000倍	散布
	<b>フルフェノクスロン乳剤 (カスケード乳剤)</b>	-	3回以内	2000倍	散布
	<b>ルフェヌロン乳剤 (マッチ乳剤)</b>	発生初期	5回以内	1000倍	散布

天然物 由来	スピノサド水和剤 (スピノエース顆粒水和剤)	発生初期	2回以内	5000倍	散布
その他 の合成 殺虫剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤 (アフーム乳剤)	発生初期	5回以内	1000～2000倍	散布
	クロルフェナピル水和剤 (コテツフロアブル)	発生初期	2回以内	2000倍	散布
	トルフェンピラド乳剤 (ハチハチ乳剤)	発生初期	4回以内	1000倍	散布
	フィプロニル水和剤 (プリンスフロアブル)	発生初期	5回以内	2000倍	散布

●この病害に関するお問い合わせは下記まで

<b>宮城県病害虫防除所予察班</b>	
〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号(宮城県仙台合同庁舎内)	
Tel 022-275-8982, Fax 022-276-0429	
<a href="http://www.pref.miyagi.jp/byogai/">http://www.pref.miyagi.jp/byogai/</a>	
<b>宮城県農業・園芸総合研究所</b>	
〒981-1243 名取市高館川上字東金剛寺1番地	
<a href="http://www.pref.miyagi.jp/res_center/">http://www.pref.miyagi.jp/res_center/</a>	
・園芸環境部	Tel 022-383-8125, Fax 022-383-9907
・バイオテクノロジー開発部	Tel 022-383-8131, Fax 022-383-9907